

第1回 大橋川改修技術検討懇談会 議事要旨

【日時】平成20年6月13日(金) 14:00~17:00

【出席委員】

松江工業高等専門学校 環境・建設工学科 准教授	浅田 純作
広島大学大学院 工学研究科 社会環境システム専攻 教授	河原 能久
中央大学研究開発機構 教授	福岡 捷二
国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所長	林 正道

【議事内容】

(懇談会の位置付け)

- ・河川整備基本方針(修正)が、工事実施基本計画から河川整備計画までが繋がっていることが分かるようにフロー図を直して欲しい。(福岡座長)
- ・懇談会の位置付けは、河川整備計画へ繋げて行くための段階的なもの。(福岡座長)

(上流部の流れについて)

- ・松江大橋の上流側あたりでは、有効な断面にならないのではないかと、現在の案でももしかすると流れないのでは無いかと心配します。(河原委員)
- ・模型実験をやってでも、流況をしっかりと見極める必要がでて来るのではと思う。(福岡座長)

(大橋川改修に対する地域の意見に対して)

- ・1/150のスケールだけで議論をしており、まちづくりとの兼ね合いから誤解を生じると思われる。まちづくりというスパンでの整合性を考えた場合、ゴールまでのロードマップの説明が住民に対し欠けているのではないか。(福岡座長)
- ・高齢者は、現在のままほっておいて欲しいという思いもある。そういった時間軸の中で考える必要がある。(浅田委員)
- ・30年後のまちづくりとの整合の中で整備計画に向けた検討を行うことが重要である。ゴールまで一気に進むことはない。利害は一致するが、注意深く決めていく必要がある。橋も、構造物としていつかはもたなくなる。(河原委員)
- ・計画内容や横断図がわかりづらいという地域の意見に対し、模型やパースを使い、誤解を解消する努力が必要ではないか。(浅田委員)
- ・松江地区は水防団そのものが無い地区もあるため、水防活動を前提とする計画は極力避けて欲しい。(浅田委員)
- ・橋梁や堤防について技術的な検討を行って欲しい。(浅田委員、河原委員)
- ・段階的な整備の案の具体的議論ができる資料をお願いしたい。(河原委員)
- ・内水対策についてはどう考えるのか?住民に正確に理解をしてもらわないといけない。(河原委員)
- ・宍道湖水位 H.P.+2.5m が原点であることの説明と、地域にわかってもらうことが重要である。次回 H.P.2.5m に関するより判りやすい資料を作成してもらい、議論したい。(福岡座長)